

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0972100507		
法人名	医療法人杏仁会		
事業所名	グループホーム仁良川苑		
所在地	栃木県下野市仁良川1442 (電話) 0285-47-0022		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(平成22年2月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤6人, 非常勤4人, 常勤換算7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	・水道代—5,000円 ・電気代—10,000円 ・おむつ代—実費 ・ガス代—10,000円 ・理美容代—2,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	400円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成22年2月6日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.8歳	最低	77歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海老原医院・岡田医院・山中歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは市東部に位置し、昔からの立派な門構えが印象的なホームである。敷地内には栗の木や竹林、周辺には田園地帯が広がっており、常に季節を感じる事ができる環境にある。ホームに隣接して同法人のデイサービスも設置されている。また、母体法人である医療機関からの往診や検診等の連携が図られており、入居者や家族の安心にも繋がっている。ホームでは家族会が設けられており、家族ノートを使用して家族間で情報交換をしたり、センター方式のアセスメントと一緒に取り組んでもらう等、家族との信頼関係が構築されている。職員が自分達が入りたいホームとしての意識づけから理念をつくりあげており、理念の実践に向けて、日々入居者の支援に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は自己評価及び外部評価の意義やねらいを理解している。外部評価結果は運営推進会議への報告やスタッフ会議でも改善にむけた話し合いを行っており、職員の気付きを促す糧ともなっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、職員の考えや思いをシートに記入してもらい、職員間での話し合いを行い、そこでの意見等を参考に管理者がまとめあげて作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族会代表、自治会長、市担当課長、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2カ月に1度開催している。会議ではホームからの状況報告や参加者からは意見や助言を出してもらい、サービスの質の確保に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や要望等は運営推進会議及び家族会や家族同士の連絡帳の他、家族が来所した際等に確認をしている。家族から苦情等がよせられた時には、法人理事長や事務長にも報告され、速やかに状況の確認を行い、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、地域の行事等に参加したり回覧板を廻している他、近隣住民から野菜等の差入れもある。また、ホームで主催する餅つきやいも煮会等の行事に地域住民への参加を呼びかけており、多くの住民の参加がある等、地域との相互交流に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中でその人らしく生活する事、一人ひとりにとって安心出来る場所と心触れ合う暮らしを目指し、「わが家」「あたりまえの生活」「ゆとりある時間」「もうひとつの家族」「感謝の気持ち」をキーワードとした独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者家族から寄贈された押絵に理念を書いて玄関に掲示している他、月1回のスタッフ会議等においても理念の確認を行い、共有を図っている。職員は入居者への言葉かけや接し方、記録等の日々の支援においても、常に理念を意識して取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事等に参加したり回覧板を廻している他、近隣住民から野菜等の差入れもある。また、ホームで主催する餅つきやいも煮会等の行事に地域住民への参加を呼びかけており、多くの住民の参加がある等、地域との相互交流に取り組んでいる。	○	ホームでは地域住民に気軽に立ち寄ってもらう事を望んでいることから、ホームにてキャラバンメイト等の認知症に対する理解を促進する講座を開催する等、交流を増やしながら支えあい関係を高めて行く事に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価及び外部評価の意義やねらいを理解している。今回の自己評価は、職員の考えや思いをシートに記入してもらい、職員間での話し合いを行い、そこでの意見等を参考に管理者がまとめあげて作成した。外部評価結果は運営推進会議への報告やスタッフ会議でも改善にむけた話し合いを行っており、職員の気付きを促す糧ともなっている。		

グループホーム仁良川苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、自治会長、市担当課長、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、2カ月に1度開催している。会議ではホームからの状況報告や参加者からは意見や助言を出してもらい、サービスの質の確保に活かしている。	○	会議の参加メンバーは固定せず、議題や地域の中で関係を深めて行きたい機関（消防署や消防団、警察等）への参加を検討していく他、参加しやすい開催日時に配慮する等、運営推進会議がさらに充実した会議なるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは運営推進会議時にホームの現状や課題等を報告している他、管理者が窓口となって制度上の相談や提出書類を持参するなど連携に努めている。	○	市とは今後も事業を行っていく上で生じる運営課題やサービスの向上に向けた取り組みを協議しながら、地域密着型サービスとして協働し、連携を深めて行く事に期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の報告は来所時や定期的に写真を添付した書面等により報告している。ホームのリビングには個々のアルバムを作成しており、行事や日々の様子を伝えている。職員の離職や異動等は年2回の家族会等を利用して報告や紹介を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望等は運営推進会議及び家族会や家族同士の連絡帳の他、家族が来所した際等に確認をしている。家族から苦情等が寄せられた時には、法人理事長や事務長にも報告され、速やかに状況の確認を行い、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員により継続的な支援に努めており、開設以来の職員の異動は最小限に留めているが、異動等がある際には、併設のデイサービスから顔馴染みの職員を配置するなど工夫している。入職や離職時には、家族会の場で紹介やお別れ会等を行っている。新人職員については入居者との関係づくりを行うことを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度職員間での勉強会を行っている他、認知症介護実践研修等の外部研修等にも順番で参加しており、経験年数等により段階的に研修が出来る体制を作り上げている。研修に参加した職員はスタッフ会議等の場において研修報告を行い知識の共有に努めている。また、パートの職員にもチームの一員として研修を促している等、すべての職員に働きながら学びの機会を提供し、サービスの向上に役立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。外部研修等を通して同業者と交流する機会はあるが、勉強会や相互訪問等を行うまでには至っていない。	○	同業者とのネットワークの構築や交流を強化することは、職場内で行き詰まっている日頃の仕事の悩みの解消や支援方法の参考等、サービス水準の向上につながる事から、近隣他事業所と職員も交えた交流をとおして質の向上に取り組む事を期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人及び家族にホームに見学に来てもらい、ホームの雰囲気や暮らしぶりを確認してもらい本人の不安や要望の確認に努める等、安心して利用できるように工夫している。また、職員は入居者の立場に立って心理的不安を取り除けるよう柔軟な支援に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が今迄培ってきた経験や生活の技、伝統行事等を職員が学ぶことも多い。また、職員は入居者と共に暮らす同士として喜怒哀楽を共にしており、訪問時も昼食後の後片づけや食器拭き等を職員と共に行っている姿が見られる等、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の仕草や会話の中から入居者一人ひとりが何をしたいか、どのように暮らしたいか、誰に会いたいか等の思いをセンター方式のアセスメントも組み入れながら把握に努めている。意思表示が困難な場合は家族の協力を得ながら本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の要望や地域で暮らし続けるために必要な支援や職員の気付き等を取り入れ、スタッフ会等で話し合いを行い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に実施しているが、状態に応じて変化があった時はセンター方式を再検討しながら家族と相談をし、さらにスタッフ会で話し合いにより介護計画の見直しをしている。また、日常ケアの様子を必ず個別記録しており、申し送りノートを活用して職員間の共有も図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に向き合い、医療機関への受診支援や隣接するデイサービス利用者との交流等を実施している。また必要に応じてボランティア、民生委員、教育機関等と協力体制を取りながら多機能性を活かした支援に努めている。	○	事業所としては、今後、権利擁護の利用による支援も考えていることから、地域包括支援センターと協働体制の構築に向けた取り組みを期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者及び家族が希望する医療機関での受診を支援している。受診時の付添いは家族にお願いしているが、家族が遠方等で対応が困難な場合には職員が付き添うなどしている。受診結果の報告については双方で情報の共有に努めている。なお、経営母体が医療法人であり、週1回の往診、2ヶ月に1回の検診等により、入居者や家族の安心に繋がっている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期ケアについての対応を出来るだけ早期から職員、法人医院長、事務長等と話し合いの場を設け、本人及び家族の意向も尊重しながら、本人にとってどうあったら良いのかを検討し、事業所が対応しうる支援方法を踏まえて全員で方針を共有している。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は入居者に対して尊敬の気持ちを持ち、言葉かけや接し方等を職員自らが検討を重ね、入居者一人ひとりにあった言葉かけに配慮している。介助等も出来るだけ同性介助に努めている。また、ホームでは個人情報保護法や情報の漏洩防止にも努めており、個人情報等の記録類は事務室内にて保管している。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな一日の流れは決めているが、入居者が主体となって一人ひとりがその日にしたい事を確認しながら支援をしている。おしゃれや身だしなみ等は職員が入居者と一緒になって洋服選び等をしたり、理美容については入居者の希望する理美容院へ付添う等のその人らしい暮らしの支援をしている。</p>		

グループホーム仁良川苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きな物、食べたい物の把握に努め、それらを献立に組み入れたりしている。家族からも入居者の好き嫌い等を確認しながらメニューを工夫している。職員も一緒に入居者と同じ物を食べている他、入居者も食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの生活習慣、入浴の順番や夜間入浴、入浴回数等、本人の希望に沿った入浴の支援をしている。午後3時半頃から入浴時間としているが、身体状況等により午前中入浴も対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の豊かな暮らしを支えるため、一人ひとりの身体で覚え込んだ記憶を活かすために生活歴や趣味・趣向の把握に努め、楽しみごとや気晴らし等を可能な限り引き出せる支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として日常的に外出の機会を設けている。入居者の希望に応じて、お弁当を持って公園に出かけたり、散歩やドライブ、食材の買出し等、短時間であっても外出の時間を設けて支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することにより入居者にもたらす心理的な不安、閉塞感、家族や地域住民にもたらす印象等のデメリットを管理者及び職員は理解しており、鍵をかけないケアを実践している。帰宅願望が強く徘徊傾向がある入居者には出来る限り寄り添うケアをモットーに、ホーム周辺を散歩する等の支援をしている。		

グループホーム仁良川苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理マニュアルを作成しており、年2回の消防避難訓練を実施している。夜間時を想定した訓練も実施している。水や食料等の備蓄については併設のディサービスと共有して取り組んでいる。	○	災害はいつ、どの時間帯に起きるかわからないことから、昼夜を通して様々な発生時間を想定しながら、具体的な避難誘導策や迅速かつ的確な避難ができる様な訓練の実施にも期待したい。また、事業所だけでの対応の限界を踏まえて地域住民からの協力や消防署・消防団、警察署との連携を構築していく事に期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、法人栄養士が不在となっているが、以前の指示を参考に栄養のバランスやカロリーを考慮した献立を作成している。摂取量が少ない場合には入居者の好きな物を軽食として提供している他、水分摂取量については個々に把握しており、不足する場合には好みの飲み物を提供する等、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長として、自分の力でその人らしく過ごせる場として家具類の配置を工夫している他、観葉植物や季節毎の飾り付けを行い快適な空間を演出している。照明も間接的な明りを取り入れており、季節や天候によって調節し、落ち着いた雰囲気を作っている。テレビ等は必要に応じて使用しており、生活音や話し声、笑い声の聞こえる様に配慮している。換気も適切に行われ、空気の淀みや不快な臭い等は感じられなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい居室づくりとして使い慣れた箆笥や鏡台の他、仏壇等が持ち込まれている。居室内は出窓が設置されており、思い思いの写真や鉢花が置かれたり、壁には入居者が書いた絵筆が飾られ、それぞれに個性ある居室づくりがなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。